



皆様、こんにちは。私は ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者の、大平まゆみと申します。

5 年程前に喉の異常に気づき、13 もの医療機関をまわった 9 ヶ月後に ALS と診断されました。22 年間近く務めてきました札幌交響楽団のコンサートマスターを辞職することになります。その 1 年後には気管切開の手術をして呼吸器を着用しました。

現在は、幸せに在宅療養をしています。それまで何でも自分一人でやってきた私がたくさんの方々のお世話になることに戸惑いはありましたが、今はありがたくケアを受けています。24 時間ヘルパーさんの介護を受け、毎日鍼治療とリハビリを受け、週 3 回の訪問看護と 2 回の訪問入浴、月 2 回の訪問診療と本当に恵まれています。

お正月に、素晴らしい映画をテレビで見ました。「桜色の風が咲く」というタイトルで、全盲で聴覚も失った少年のお話です。9 歳で全盲となり、18 歳で音のない世界に突き落とされた青年が、お母様の考案された指点字という方法でコミュニケーションを取っていきます。現在、東京大学の教授となっていっしょにこの青年は、福島智先生とおっしゃいます。人間の可能性は無限ですね。

音楽家でも大変な困難を克服した人がいます。ベートーヴェンです。20 代で持病の難聴がひどくなり、28 才で最高度難聴者となります。そして 40 才の時には完全に聴覚を失ってしまいました。その後に交響曲第 9 番を作曲したのです。奇跡ですね。世界中の人々が知っている、あの「喜びの歌」を書いています。生きる喜びの歌を。

孤独と闘い、悩み、絶望感に苛まれて自殺未遂を繰り返し、それでも生きたベートーヴェンは、どれだけ多くの人達に生きる力と勇気を与えたことでしょうか。200 年以上経った現在も世界中で演奏され、歌われ続けているのです。なんて素晴らしいことでしょうか。人間の可能性は無限ですね。

現在活躍されているピアニスト、辻井伸行さんも全盲でいっしょにいます。信じられないような速さと正確さで鍵盤の上を舞う指は、まるで奇跡を見ているようです。人間の可能性は無限ですね。

私もまさか全身不随になるとは予測が付きませんでした。日本という国、札幌という街に感謝しつつその恩恵を受けています。障がい乗り越えた方々からたくさんのパワーと勇気をいただいて、楽しく暮らしています。だって人間の可能性は無限ですもの。



大平 まゆみ

仙台市出身。東京芸術大学附属音楽高等学校卒業、同大学入学 3 ヶ月後にアメリカ、サンフランシスコ音楽院に招待留学。在学中、コールマン室内楽コンクール第 1 位、タングルウッド音楽祭では最優秀ヴァイオリニストとしてシルバースタイン賞を受賞。卒業後、同音楽院、スタンフォード大学の講師となる。世界各地で公演、ソロ活動も続ける。

パサディナ室内管弦楽団コンサートマスター、シラキウス交響楽団准コンサートマスター、バンクーバー交響楽団首席第 2 ヴァイオリン、東京交響楽団アシスタントコンサートマスター、読売日本交響楽団をはじめ数々のオーケストラのゲストコンサートマスターを経て、1998 年に札幌交響楽団のコンサートマスターに就任。2019 年 11 月、ALS の診断を受け札幌交響楽団を退団。21 年 8 ヶ月に渡り札幌交響楽団のコンサートマスターを務めた。現在は豊かな想像力を活かし、ボイスター（音声合成機）でラジオ番組やサウンドエッセイを発信。

